



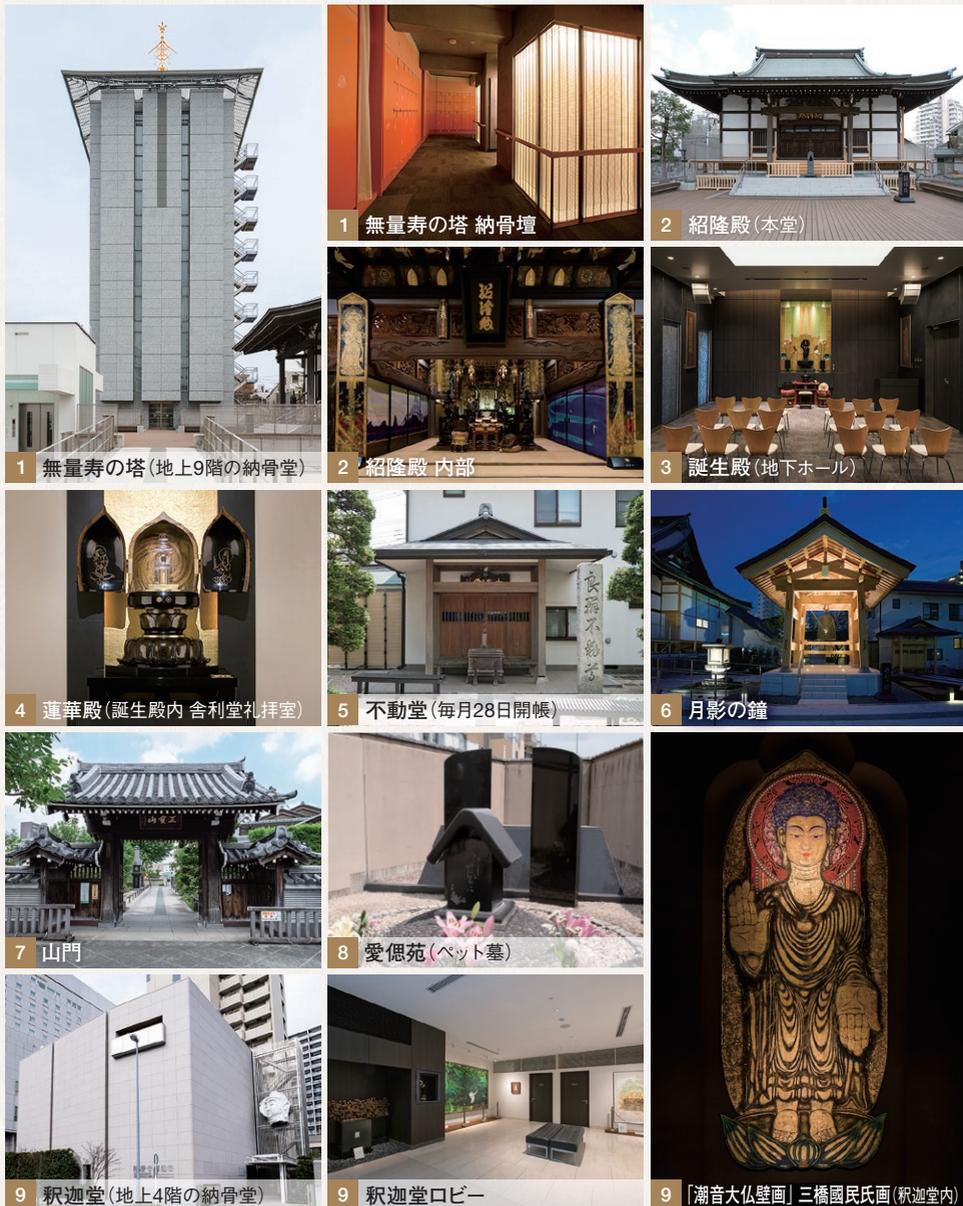
いやし
と
気づき

浄土宗

三寶山 勝樂寺

いやしと気づきの場 勝楽寺

平成20年(2008年)に大改修した勝楽寺。
施設の充実とともに安全性やバリアフリーにもこだわりました。



1 無量寿の塔 納骨壇

2 紹隆殿(本堂)

2 紹隆殿 内部

3 誕生殿(地下ホール)

1 無量寿の塔(地上9階の納骨堂)

4 蓮華殿(誕生殿内 舍利堂礼拝室)

5 不動堂(毎月28日開帳)

6 月影の鐘

7 山門

8 愛徳苑(ベツト墓)

9 「潮音大仏壁画」三橋國民氏画(釈迦堂内)

9 釈迦堂(地上4階の納骨堂)

9 釈迦堂ロビー

時代と共に歩むお寺

創建から450余年、人々と共に歩んできた勝楽寺。
今、人々に何を求められているかを問い直し、
時代に合ったお寺を創ります。



勝楽寺 第35世住職
茂田 知曉
平成2年生まれ
平成24年 大正大学卒



本堂 / 無量寿の塔 / 釈迦堂

勝楽寺縁起 正式名称 三寶山紹隆院 勝楽寺(さんぼうざんしょうりゅういんしょうらくじ)

天正元年(1573年)
八王子極楽寺の末寺として原町田村に創建
江戸時代には門前に「二六の市」など開かれ地域が発展
明治初期に始まった廃仏毀釈から逃れ相模の国大山より
不動明王が勝楽寺門前に移される

昭和3年(1928年)
1923年の関東大震災で倒壊した本堂を再建

昭和36年(1961年)
境内を分断する都市計画道路決定

平成20年(2008年)
都道開通、境内伽藍整備、納骨堂開設
当時は斬新だった塔型の納骨堂はマスコミでも話題になった

平成25年(2013年)
第二の納骨堂 釈迦堂開設



幕末の原町田風景(F.ベアト撮影/1860年)

文化と芸術に囲まれて

町田が誇る造形美術家、故 三橋國民氏が戦場に散った僚友への鎮魂の想いを具現化した作品が境内の随所でご覧いただけます。

本堂内部の天蓋、天井画、襖絵など多くの荘厳を手がけた三橋氏が平成20年の改修でも全体を監修、多くの作品を制作しました。



無量寿の塔 相輪「無」



誕生殿 誕生仏



紹隆殿 天蓋



月影の鐘 梵鐘のレリーフ



紹隆殿 外陣 鍍金玻璃モザイク壁画装飾



釈迦堂レリーフ「微笑」



「鳥の詩」4曲屏風



誕生殿 地下ロビー



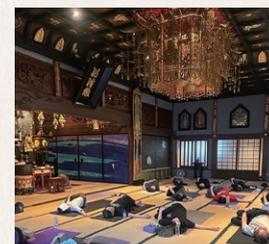
宝篋塔山門



仏手のオブジェ

役割としてのお寺

勝楽寺では、地域と密着した活動のためホールや境内をコンサート等のイベント会場として開放しています。勝楽寺は誰もが気軽に立ち寄り、つながりを感じられる場所として、従来からの寺院が地域で果たしてきた役割を大切にしています。



ヨガ教室



茶道教室

勝楽寺の支援活動

勝楽寺では仏様に供えられた品物や布施の一部を仏の御心にかなうような使い方をすべく、勝楽寺の大改修を行った勝楽寺第34世住職茂田真澄上人(令和元年遷化)が立ち上げた宗派を超えた国際協力NGO「アーユス仏教国際協力ネットワーク」などを通して国内外の支援活動をしています。

造形美術家 三橋 國民氏

大正9年(1920年)町田に生まれる。第二次世界大戦で最前線西部ニューギニアで闘い、部隊40人中2人の生き残りとして帰還。以来鎮魂のための作品制作を続ける。日展 内閣総理大臣賞・光風会 辻永記念賞他12賞受賞。東京都功労者(文化功労)表彰、地域文化功労者(芸術文化)文部科学大臣表彰、勲四等瑞宝章受章。東京都名誉都民、町田市名誉市民。著書に「生きて還れぬニューギニア」他。平成30年(2018年)逝去。

「町田駅」より徒歩でお越しいただけます

JR横浜線「町田駅」

ターミナル口 徒歩5分 / 中央北口 徒歩10分

小田急線「町田駅」 西口または東口 徒歩15分



※車椅子用駐車場を除き駐車場はありません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

天正元年(1573年)創建



町田市
浄土宗

勝楽寺

TEL 042-722-3147

〒194-0013 町田市原町田3-5-12 FAX 042-727-6949

山門 7:00~18:00 / 寺務所 9:00~17:00



ホームページ で

shourakuji.com